

水害から生命・財産 を守りましょう



↑大島川の濁流に洗われる住宅 一市田駅の貨物ホームの西方附近、右手が上流吉田側から写す

高 森 町

昭和三十六年六月伊那谷を襲つた梅雨前線豪雨は忽ち五百ミリを超え未曾有の大災害となつた。当町に於ても至る所の山腹が崩落し溪流河川悉く氾濫し天龍川は満水となり歴史を誇る堤防も遂に決壊した。死者十一名流失全半壊家屋百八戸田畑山林の流失二百五十町歩に及び橋は流れ道路や鉄道も寸断されて交通途絶し電燈も消えて一時暗黒の町と化し被害総額三十五億円と推定された。

不安の中に不眠不休水防に當つた町民は雨が止むと直ちに災害の克服に立ち上つた。災害救助法が発動され各種の特別立法が成立し関係各方面の援助協力の下に全町民一体となつて災害の復旧に努力した結果復興は着々と進み爾來四年にして国県町等の工費合せて三十億円余に達する復旧事業も漸く完成し郷土の山河は其の様相を一新し耕地は其の面目を改めるに至つた。

茲に永く此の大災害の復興を記念するため碑を建て併せて災害犠牲者の冥福を祈り再び此の様な災害の起らぬ事をねがうものである。

昭和三十九年十一月

高 森 町

36.6 災害日誌

6月26日(雨)

○午後0時、測候所より大雨に関する情報第1号発令(昭和25年6月の豪雨による被害と同様)午後5時45分、大雨注意報出る。(県の南部で水害を起す恐れあり)

6月27日(終日豪雨)

○午前10時30分、大雨洪水注意報発令(今日から明日へかけて雨、河川は増水、山沿い地方は崖くずれ、落石のそれあり)

○午前11時頃、黒沢川筋の草刈りを放送したのを第一声として各地より被害報告入る。

○午後1時55分、被害第一報、田沢川、下平駅線欠壊。

○建設省市田出張所、雨量121耗を測定。

○上平堤防欠潰し、天竜川、松木戸場に向う。

○午後2時、天白堂橋流失(橋流失第1号)胡麻目川吉田側へ欠潰。

○山吹診療所浸水始まる。

○午後2時15分、水防本部命令第1号、水防団員、水防に出動する。

○午後3時、岩崎重美氏宅埋没、蜂谷源吾氏宅埋没。

○役場内に災害対策本部を設置。

○北小中学校給食室へ浸水。

○下平 池田さき氏宅流失確実。

○午後4時すぎ胡麻目川山吹側へ欠潰、南大島川はらん。

○午後5時、災害対策本部より救助、避難などについて指示

○惣兵衛堤防欠潰始る。

○午後5時25分、“県の中南部と西部に対する大雨洪水警報発令。

○各地で家屋の浸水、流失の危険にさらされる。

○各河川の護岸も危険となる。

○午後4時30分、胡麻目川下流一帯に避難命令。

○天竜社学園に浸水危険となる。

○牛牧米ヶ沢に山津波、民家避難を始める。

○午後8時30分、追分で山津波、家屋の流失、行方不明者負傷者続出、追分橋は流失。

○竜西線山くずれで不通となる。

○午後9時、追分に又行方不明者出る。

○電灯消える。

○山吹市田間の通信途絶える。

○下市田南部で家屋流失。

○午後10時45分、下平に土砂くずれ、寺沢ふき子さん死亡。

○各河川の流域、民家避難を続ける。河川の護岸欠潰相ぐ午後12時30分、大沢川にかかる竜西線の橋梁流失寸前となる。

○出砂原全域避難をはじめる。

6月28日(小雨時々豪雨)

○各河川の氾濫続く。

○午前4時、農試分場より雨量報告。27日午後5時より28日午前4時まで196耗。

○午前5時命令第9号発令。

○電灯又消える

○午前5時47分、故桃沢やす子氏の死体診療所上流で発見

○下平駅流失を確認する。

○各地で水防タキ出し始まる。

○午前7時、災害救助法の適用決まる。

○追分行方不明者、田沢川下流で死体となって発見。

○午前8時、大雨警報は解除され洪水警報に切りかえられる。

○山吹地区運営委員会開催。

○家屋の全半壊相つぎ、橋の流失、堤防、護岸の欠潰の危険去らず。

○高森町自衛隊の出動を要請。議会定例会を全員協議会に切かえ災害対策を練る。

○中央道の通行可能を確認する。

○たき出し用パンを各地へ支給する。

○午後4時、追分へ自衛隊員16名到着。

6月29日(時々雨)

- 午前8時、災害対策委員会組織なる。
- たき出し米の確保のため食糧事務所の了解を求める。
- 松木戸場堤防欠潰始まる。
- 惣兵衛堤防の水防作業を打切る。関係方面へ避難命令を發す。
- 午後6時、惣兵衛堤防水防小屋流失する。
- 午後8時30分、下平天竜堤防欠潰止まる。
- 農試分場に浸水する。
- 教委7月2日まで臨時休校を各学校へ指示。

6月30日(小雨のちくもり)

- 午前9時電灯つく。
- 防疫第1号生ま水使用について指令。
- 午後1時北沢安太郎氏宅流失。
- 生き残り水田カンガイ対策委員会。
- 井水被災調査カード配布。
- 午後4時、自衛隊朝霞建設大隊市田橋架橋に到着。
- 南大島川にかゝる一貫水路橋の爆破を放送。
- 診療所山吹支所で診療再開。

7月1日(朝から雨午後小止み)

- 午前6時、一貫水路橋の件で下市田五区会所で関係者と懇談する。
- 午前9時、各区長へ被害調査を依頼する。
- 家畜防疫薬品到着。
- 市田郵便局、郵便の自動車輸送を始める。
- 飲料水の消毒薬、家庭の消毒薬を各戸へ配布。
- 市田壮年青年婦人会役員勤労奉仕を計画、実施。

7月2日(曇時々晴)

- 救助法による救援物資到着。
- 消毒薬品配布。
- ヘリ防除打合せ(地事所)
- 議会協議会。

7月3日(曇時々晴)

- 南中学校授業を再開する。
- 緊急民生委員会
- 厚生委員会
- 商工会物資の定価販売を呼びかける。
- 飼料用藁集荷。
- 農業技術員会、災害対策要項を検討。
- 被害者同盟代表者町へ陳情。

7月4日

- 飯田高校生徒31名勤労奉仕。
- 中電へ航空写真撮影を依頼する。

7月5日

- 第1回救援物資配布。
- ヘリコプターによる農作物病虫害防除について協議。

7月7日

- 議会協議会。
- ヘリコプターによる空中農薬撒布。

7月8日

- 農業技術員連絡会議。

7月9日

- 自衛隊、市田、追分、唐沢洞各橋梁の仮設を終わる、渡り初め式を挙げる。自衛隊は帰る。

(公民館報たかもり 昭和36年7月22日 45号から転載。)

36災害の被害と復旧の写真

天竜川沿岸



↑ 明神橋上空から天竜川の下流をみる、右手が下市田河原



← 惣兵衛堤防の水防活動

水防資材の運搬
↓ 一下市田河原一前方が天竜川

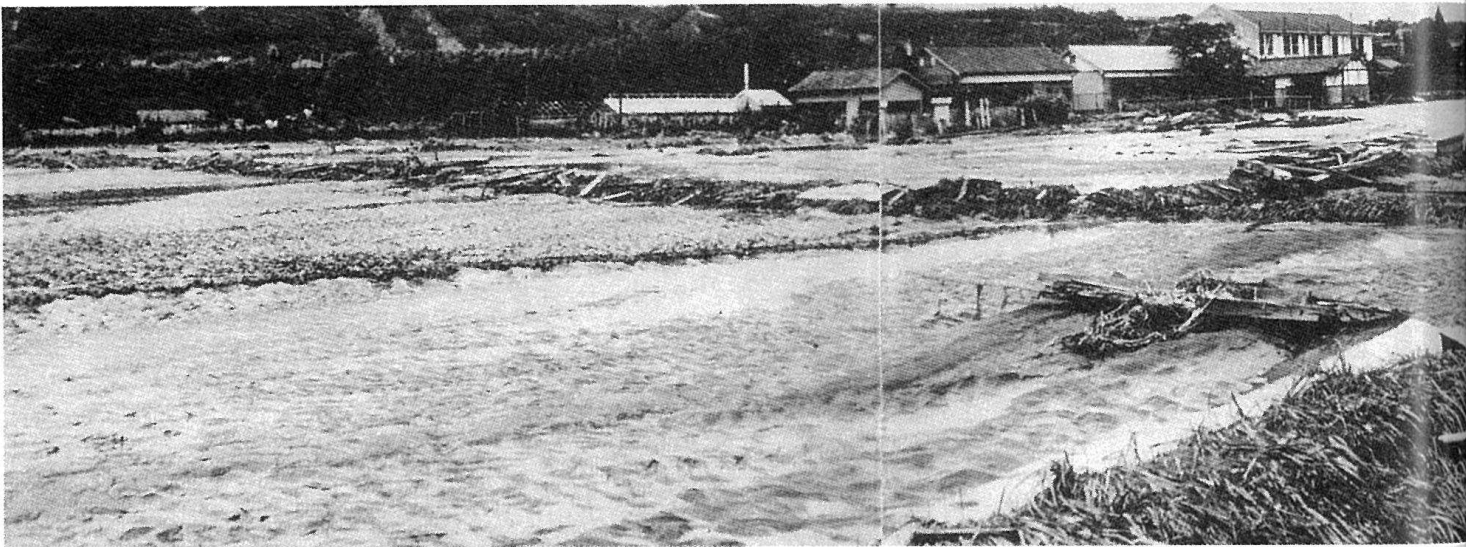


↑ 堤防が欠潰して濁流の流れる下市田河原一上流から見る、遠方右手建物は農試

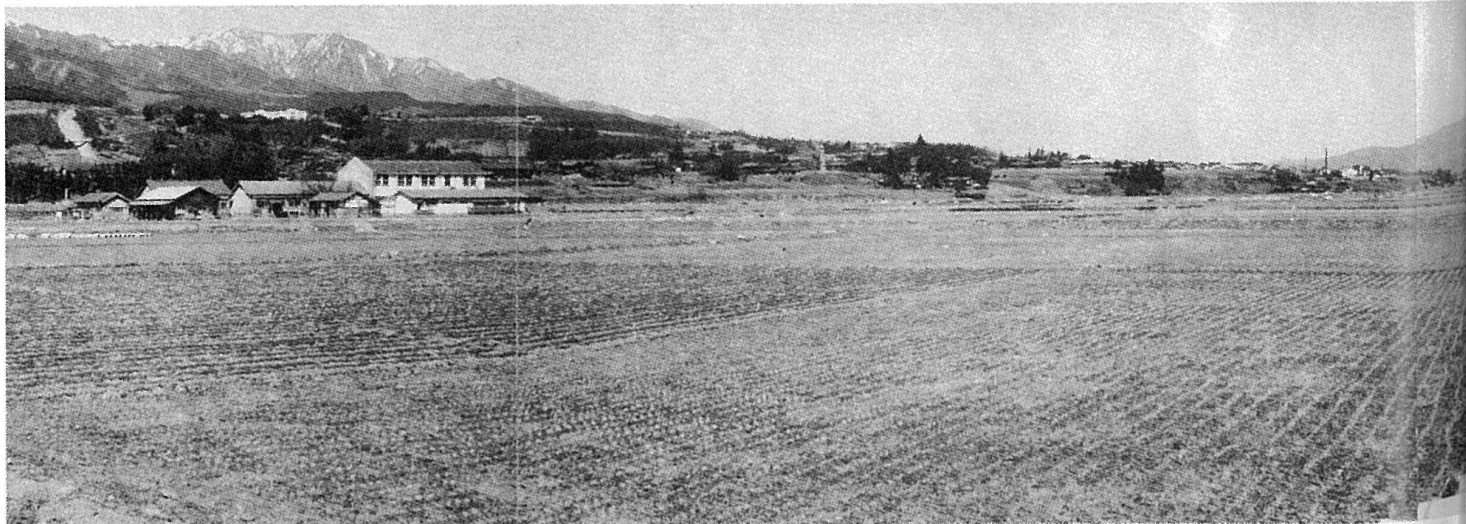


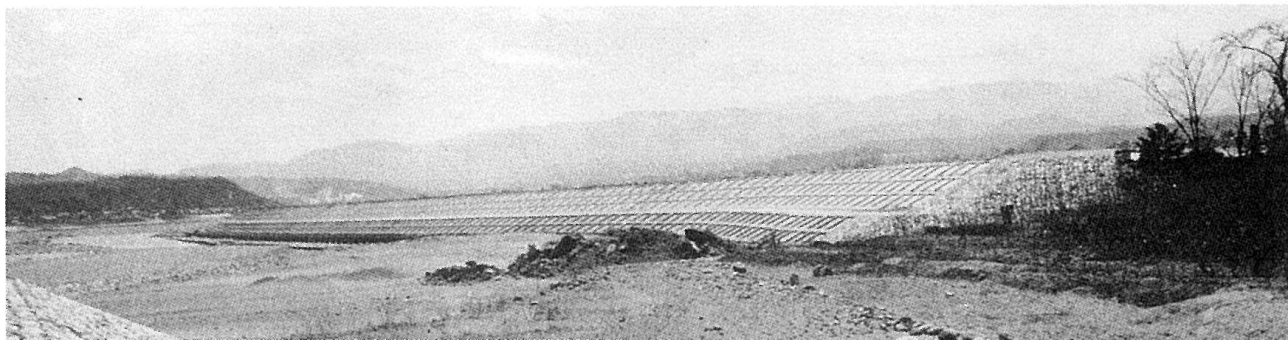
↑ 惣兵衛堤防の必死の水防作業—6月29日

↓ 流失した下市田河原、建物は農試



↓ 復旧された下市田河原の水田





←ありし日の惣兵衛堤防



↑復旧された堤防



惣兵衛堤防……

寛延3年飯田藩主が中村惣兵衛に命じて作らせ300年の歴史を誇った堤防も大洪水に抗すべくもなく、28日一部損壊し29日には朝からその上流が欠損し始めて、終日に亘る数百名の必死の努力も空しく、夜には遂に全面的に欠壊して一夜にして下市田、座光寺に亘る美田数拾町歩が流失し、このため水防活動は7月4日まで日夜続けられ、延べ3,500人、資材費100万円要した。

復旧は36年7月の仮切に始まり以後38年までに約1,300mの近代的なコンクリートの堤防が約1億5千万円で竣工した。



牛 牧 地 域

→
宮沢川の上流（米の沢）の
山津波で大きな被害をうけ
た牛牧の牛牧神社上段の上
平一帯

- 必死の水防作業のあ
とがうかがわれる
- 左前方建物は原国尊
さん
- 東に向かって写す遠景
は豊丘村



↑ 米の沢入口附近の氾濫と仮復旧作業



- 前方建物は原一美さん
- 右手は用水路

← 牛牧引張附近
原一実さん前から東方をみる
中央が宮沢川



↑宮沢川の氾濫により土砂と流木で埋没した牛牧神社上段の水田地帯

- 前方建物は熊崎彦雄さん
- 遠景は天竜川と対岸



←宮沢川の氾濫で埋没した水田と元上平選果場
—牛牧神社西方300m附近

南大島川の支流の地獄洞川の山津波によって流失した牛牧、小木曾地籍の水田
→
—前方建物は原清治さん
—左手が地獄洞川



大島川水系、吉田河原

↓大島川の氾濫で一面の砂礫の河原と化した出砂原



↓同じ位置の復旧の状況 一鉄橋は飯田線、昭和39年写すー



↓同じ位置の今日 一国道、バイパスが開通し宅地化がすすんでいる。 昭和56年写すー



天竜社西側一帯と埋没した天竜社、左上のすみがみずほ橋、飯田線はほとんど姿をとどめない。



大島川（天竜社附近）……大島川は鉄橋やみずほ橋にせがれて、この附近で兩岸へ氾濫し、上流からの土砂をすべて天竜社と吉田河原へ流入させた。天竜社へ数万 m^3 、吉田河原へは最高6 m余に達する程で、ために民家2～3戸が屋根まで埋没し、その量は計り知れない。……水防作業も27日夜から30日まで吉田側、出砂原側それぞれで続けられ延べ1,100人木材千数百本70余万円を要した。

大島川は37年に復旧し、38年に鉄橋、みずほ橋も架け替えられて禍いの因を断つ。



↑ 田沢川追分橋附近…… 6月27日夕方、小田沢川に発生した鉄砲水により、一瞬にして4戸の民家を流失し、8名の犠牲者をだした。……田沢川は38年に復旧され、同時に県道も付け替えられて新しい追分橋が出来た。
↓ 又旧橋はそのまま残っていた。





↑ 竜西線～下平駅の間の田沢川 この後更に氾濫し右手の建物も流された。
 左上の建物は下田房雄さん 上流から下流を写す

↓ 田沢川の一貫水路附近から下流をみる、 一前方天竜川、手前は竜西一貫水路—



高森町の被害の概要 —復興記念式典資料から

1. 人 員	(1) 死 者	9名	内 男	5名	女	4名	
	(2) 行方不明	2名	男	1名	女	1名	
	(3) 負 傷 者	17名	男	11名	女	6名	
2. 家 屋	(1) 流失埋没	42戸	罹 災 者			202名	
	(2) 全 壊	23戸	〃			118名	
	(3) 半 壊	43戸	〃			210名	
	(4) 床上浸水	97戸	〃			475名	
	(5) 床下浸水	360戸	〃			1,440名	
3. 土 木	(1) 道 路	イ, 欠潰延長		20,289m			
		口, 破損延長		25,365m			
						被害額	347,190千円
	(2) 橋 梁	イ, 流 失		58個所			
		口, 破 損		17個所			
						被害額	96,310千円
	(3) 河 川	イ, 護岸欠潰延長		51,067m			
		口, 破損延長		6,450m			
						被害額	1,024,350千円
4. 林 務	(1) 治山・治水	イ, 崩 壊		67個所			
		口, 崩壊面積		3,484a			
						被害額	975,000千円
	(2) 林 道	イ, 欠 潰		28個所			
		口, 欠潰路面流失延長		28,950m			
						被害額	64,810千円
5. 耕 地	イ, 農 地	35個所	122町	245,000千円			
	口, 施 設	124個所		315,620千円			
	ハ, その他(関連を含む)			29,380千円			
						被害額計	600,000千円
6. 農 事	イ, 農 作 物			170,650千円			
	口, 農 機 具			940千円			
	ハ, 施設(建物)			26,130千円			
						被害額計	197,720千円
7. 農事試験場	イ, 土 地			4,316千円			
	口, 建 物			6,016千円			
	ハ, 施 設			422千円			
	ニ, 機 械			1,177千円			
						被害額計	11,931千円
8. 家畜(家畜, 生乳, 生繭, 鯉)						被害額計	39,642千円
9. 水 道	イ, 施 設 数	4					
	口, 送配水管延長	1,291m					
						被害額計	4,482千円
10. 有線放送						被害額	1,383千円
11. 公(共)施設	(1) 天 竜 社			129,624千円			
	(2) 国 鉄			29,000千円			
						被害額計	158,624千円
						被害額合計	3,521,442千円(家屋除く)

高森町の災害復旧事業の概要 —復興記念式典資料から

1. 耕地事業

(単位 千円)

年 度	区 分	農 地	施 設	計
3 6	個 所 数	1 5	2 1	3 6
	金 額	7 2, 4 9 2	9 2, 8 1 0	1 6 5, 3 0 2
3 7	個 所 数	9	4 3	5 2
	金 額	1 2 6, 9 6 5	1 7 0, 3 3 6	2 9 7, 3 0 1
3 8	個 所 数	7	4 4	5 1
	金 額	4 2, 2 7 8	5 6, 5 0 3	9 8, 7 8 1
3 9	個 所 数	1 0	2 6	3 6
	金 額	1 1, 4 5 8	3 8, 1 1 8	4 9, 5 7 6
小 計	個 所 数	4 1	1 3 4	1 4 7
	金 額	2 5 3, 2 0 3	3 5 7, 7 6 7	6 1 0, 9 7 0
小 災 害	個 所 数	1 0 7		1 2, 9 7 4
合 計	金 額			6 2 3, 9 4 4

2. 土木事業 (町関係)

年度別	区 分	道 路	橋 梁	河 川	計
3 6	個 所 数	5	3	2	1 0
	金 額	3, 9 6 5	4, 3 8 3	1, 6 1 0	9, 9 5 8
3 7	個 所 数	9	6	2	1 7
	金 額	1 1, 0 3 6	9, 3 5 4	4, 2 4 7	2 4, 6 3 7
3 8	個 所 数	1 3	8	—	2 1
	金 額	1 9, 3 3 2	8, 4 3 0	—	2 7, 7 6 2
3 9	個 所 数	4	5	2	1 1
	金 額	2, 6 9 3	7, 0 3 0	6 9 4	1 0, 9 1 7
小 計	個 所 数	3 1	2 2	6	5 9
	金 額	3 7, 0 2 6	2 9, 1 9 7	6, 5 5 1	7 2, 7 7 4
小 災 害	個 所 数	8 0			6, 4 4 9
合 計	金 額				7 9, 2 2 3

3. 林道事業

年 度	個 所 数	金 額
3 6	6	8, 9 5 2
3 7	1 0	1 2, 6 9 0
3 8	2 4	1 9, 6 0 8
3 9	9	7, 3 7 2
小 計		4 8, 6 2 2
小 災 害		3 6 8
合 計		4 8, 9 9 0

4. 住 宅

融資住宅建設並びに補修

融 資 総 額	6 2 戸	1 4, 6 6 0 千円
公 営 住 宅 建 設	2 7 戸	1 1, 2 3 6 千円

5. 天竜川、一級河川、砂防事業

その他公共利用施設等 2, 2 8 8, 0 7 7 千円

防災はふだんの心構えから

＝ 災害を未然に防いで郷土をまもるために

ふだんから心がけましょう ＝

I 河川のはんらんによる災害を防ぐために

1. 河川は草を刈り、ごみをすてないようにいつもきれいにしておきましょう。
2. 河川や農業用水路の用水取入のせぎはふだんははずしておきましょう。
3. 小河川や農業用水路、道路側溝のごみなどを除いて流れをよくしておきましょう。
4. 暗渠はいつも点検して通りをよくしておきましょう。
5. 洪水を防ぐにはまず治山です。山の造林に心がけ山の緑をまもりましょう。
6. 河川は国民全体のものです。みんなで愛護しましょう。

II がけ崩れによる災害を防ぐために

1. がけや急斜面では
 - 上段から水が流れこまないようにしましょう。
 - 地盤をゆさぶる大木は切りましょう。
 - 附近に水路がある場合はいつもきれいにしておきましょう。
2. 地盤の割れ目はがけ崩れの前兆です。見廻って早期発見につとめましょう。

III 災害から身を守るために

1. 気象情報に注意し、又町や有線放送の指示にしたがいましょう。
2. 非常時の避難場所と安全な避難経路をふだんからきめておきましょう。
3. 非常時に必要なものは、ふだんから整理し、いつでも持ち出せるよう用意しておきましょう。
4. 雨量が降り始めてから 100mm を超えたり 1 時間に 20mm を超える強い雨の場合には河川のはんらんやがけ崩れの危険があります。このようなときには河川やがけの近くでの行動はやめましょう。